

はじめに

教師が教育の専門家として立つためには、教師一人一人が、そのキャリアを終えるまで研鑽し続けて個々の力量を高めていく必要があります。そうした教師一人一人の研鑽が持続継続されていることを前提として、学校は学校としての専門性を高めていく必要があります。教師個人の興味関心や、その年に受け持つ子供の実態、医療やテクノロジーの進展や時代のトレンドを含めた社会状況の影響、教師個人の得意や不得意などを背景とした自己研鑽だけに任せては、学校に求められる課題解決につながらなかったり、学校に通う子供たちのよりよい学びにつながる成果を生み出せなかったりすることがあります。

本校は学校全体の専門性を向上して、特別支援教育の核となる、個に応じた教育を計画実施するために継続して2つのことに取組んできました。

一つは、個に応じた学習教材を開発制作する「教材開発プロジェクト」です。個に応じた教材の圧倒的物量は、本校の強みや魅力であり財産です。もう一つは、平成25年度から根拠に基づく科学的な指導を行うために、数多くあるアセスメントの中から「太田ステージ」を中心とした全校統一アセスメントの実施に取り組んでいることです。この二つの取組みを継続持続するために、外部専門員の導入や、教材開発室の整備や、必要な道具や部材の整備などに予算的な措置を継続しています。学校の専門性向上を支えるために、経営企画室スタッフがその土台を支えています。学校が行う研究活動は学校全体で取り組む職務そのものだけということです。

今年度の研究のまとめの主要な内容には、昨年度から3年計画で取り組んでいる「カリキュラム・マネジメント」の中で研究開発をすすめている ①学習単元の指導計画開発作成 ②「生活」「理科」「社会」等の教科別の指導の導入があります。

この研究をすすめる背景には次のような状況があります。

○知的障害特別支援学校の小・中学部については、学習指導要領に年間の総授業時数の標準が定められている一方で、教科等や各教科を合わせた指導（日常生活の指導・遊びの指導・生活単元学習・作業学

習等)の配当時数については学校間で差があります。

○同じ義務教育段階である、地域の小・中学校は、教科等ごとの年間の授業時数が規定されています。

○学習指導要領の今次改定で、ようやく知的障害の段階に応じた学習内容等が詳細に示されました。

個に応じた指導の充実は特別支援教育の土台です。学校の成り立ちの歴史や地域性も学校の教育内容の特色として現れます。そうした学校間の違いに寛容でありつつ、東京都全体の課題として、学校ごとの学習内容や学習量の違いを少しでも緩やかにしていくことに着手していく必要があります。

校内研究として3年計画で進めているカリキュラム・マネジメントは、東京都の研究事業である「知的障害の状況や程度に応じた指導の在り方の研究」と方向性を同じくすると考え、同研究指定校に応募して、この2年間研究指定校の役割を担ってきました。具体的には小学部で「生活」、中学部に「理科」「社会」を設定して、教科別の指導として扱う内容と、各教科等を合わせた指導として扱う内容の整理を進めています。令和6年度末には本校と他の研究指定校の先駆的な研究成果を全都に公表します。

本校は、研究指定校以外の知的障害特別支援学校が「生活」「理科」「社会」の教科別の指導導入に対する意欲を高められるように先導する役割を担っています。令和6年度は新たに設定した教科別の指導と、教科との関連付けを明確にした各教科等を合わせた指導を先行実践する中で、生き生きと学ぶ子供たちの様子を蓄積して発信するために授業実践の開発改善を推進します。子供たちの変化成長こそが教科別の指導を推進する際の説得力の源泉だと考えるからです。

多くの皆様から、ご指導・ご助言をいただければ幸いです。

学校は「勉強する場所」です。

子供たちが将来の自立と社会参加を実現することができるように、学校が勉強しやすく、自信をもって社会に歩き出すための準備ができる場となるように研究活動を推進して参ります。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

令和6年 3月

校長 石川 拓